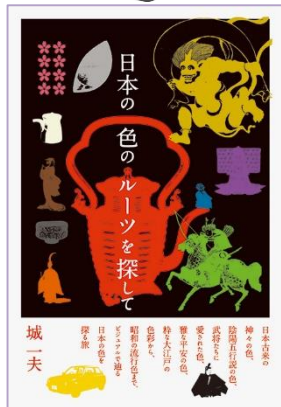


きになる本をてらします

ブックらいと



今に続く日本の文化



1

『日本の色のルーツを探して』
城 一夫／著
パイインターナショナル
2017 757.3

古くから日本で使われている代表的な色について、時代ごとの使われ方を解説しつつビジュアルも織り交ぜて紹介する本書。禁色とされていた赤、歌舞伎役者が着ていた茶色の流行などに焦点を当てています。また、色の語源や仕組みから、日本の色の成り立ちにも触れていきます。

日本古来より使われている色のことを伝統色といいます。そして、伝統色といって思い浮かぶのが十二単衣における「襲色目(かさねいろめ)」でしょう。時期によって様々な色を用い、季節の移り変わりを感じさせる「襲色目」は古代日本の文化を代表するものの一つではないでしょうか。

そんな「襲色目」についても触れているこの本。他にも様々な時代や色について書かれています。ぜひ「色」という視点で時代を旅してみてください。

2



『素晴らしい装束の世界』
八條忠基／著
誠文堂新光社 2005 383.1

装束の歴史、種類、色、着方、仕立て方等がカラー写真と絵で分かりやすく説明されています。華やかで優美な装束の世界を堪能できます。

3



『百人一首』
こうの史代／著
日本文芸社 2022 911.147/キイロ

本来の歌とは関係なく、百人一首を覚えるために、上の句5字と下の句7字から連想されるものを1枚のイラストで表現しています。柔らかいタッチのイラストに癒されます。

4



『よくわかる香道』
三條西堯水／監修
メイツユニバーサルコンテンツ
2022 792

香道は、様々な知識や文化を含む総合芸道といわれています。その歴史から香木や道具の使い方、所作、作法まで、わかりやすく解説された一冊です。



相模大野図書館の本は、『日本十進分類法』に従って並んでいます。『日本十進分類法』とは、本を内容別に整理する為の方法です。まず0~9の大まかな区分に分け、その10区分をさらに細かく分けることによって、わかりやすく配置することができます。

またその中で、参考資料(R)、郷土資料(K)、文庫(BF)や新書(S)、旅行ガイド(T)、児童書(J)などは分類記号の前に別置記号を付し、探しやすくしています。他にも、小説(F)、雑誌(Z)、絵本(E)、洋画DVD(DW)、などの表記もあります。